



ケナガコナダニの発生が見られています。  
以下のほ場は発生しやすい状態なので、早期に対策を行いましょう。

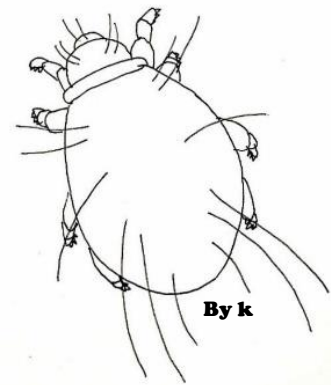
- ・前作(春、秋)でケナガコナダニの被害が発生している
- ・ほうれんそうを同一ほ場で5年以上連作している。
- ・未分解有機物(籾殻、菜種かす、魚かす等)やほうれんそうの残渣をすき込んでいる。
- ・土壌が砂壤土(砂が強い)で地表面が乾きやすい。
- ・キルパーなどの土壌消毒や粒剤による土壌処理はしていない。

### 1) 耕種的防除

- ・未熟な有機物や過度な量の有機物の投入を避ける。
- ・子葉展開～4葉期に地表面を乾燥させすぎない。  
(は種前のかん水は土壌水分の不足がないよう実施)

### 2) 薬剤防除

- ・茎葉散布は**本葉2～4葉が適期。**  
(コナダニのほうれんそうへの移動が活発なため)
- ・畝間や株間の土壌表面にも、しっかり薬剤がかかるように散布する。
- ・土壌表面が過乾燥な時は、防除前日にかん水する。  
(土壌表面が湿った状態の方が薬剤の効果が向上)



使用前に農薬のラベルを確認しましょう。